

申11号「2018年度賃金引き上げに関する申し入れ」 第1回目交渉おこなう！！

組合

会社

- 2017年度第3四半期決算は、営業収益112億6700万円（対前年比101.5%）、営業利益で6億7600万円（対前年72.2%）で対前年を2億6000万下回っているものの好業績と言える。根幹の高速線、一般線の収入等を軸に営業収入が1億6500万円うわまわっており、組合員の直向きな努力を正当に評価するべきである。
- 営業費用の増加はコントロールできない動力費、計画投資である新車投入の減価償却費が理由であるが、時々の情勢をも飲み込む順調な安定経営になっている。
- 経営側の声は常に不安要素ばかり並べるが、組合員の不安解消にはならない。どれだけ稼げばよいのだという声も多い。安定的経営を生み出している組合員に安心させる発信も必要だ。
- ここ数年でバス事業単体の黒字も間近であることを認識してきた。企業はお客様と社員、株主のためであるが、肝心の社員のための会社という社風が感じられない。会社はオープン経営を謳うが、かなり閉鎖的であると感じる。
- 2017年度決算は、会社が主張していた安定的経営の目安である4億円黒字の連続達成は確実だ。満額回答の支払い能力は充分にあり、賃金は労働力の再生産費であることを根拠に労使での原則的な議論をしっかりとおこなっていく。
- この4年間、新旧プロパー間ベアに格差をつける会社の主張から厳しい議論を行った。賃上げの要素は物価上昇分・生活向上分・社会情勢・会社の支払い能力であり、組合員と家族に平等に一律配分すべきもの。人事賃金制度の課題と切り分けて考える主張は変わらない。継続してベアを出す必要性も交渉で確認してきた。
- 労働人口の減少と高齢化で人材確保はどの業界も深刻さが増している。人材確保は最重要項目であり、契約社員の日給や時給も人命を預かる職業、また社会的に見ても明らかに低賃金である。安心して働ける待遇を求めていく。

- 組合員の誠意ある努力のもとで昨年に引き続き好成績となっており感謝している。申し入れ主旨は十分理解している。
- 増収減益である。昨年一昨年の勢いはない。以前は2億円の営業利益を継続することが安定的経営としていたが、JR東日本からの経営支援物件も受けており、4億円に上げた経緯がある。
- 小諸支店移転・東京支店のリニューアルを行うこと、新車の投入、昨年の手当て改訂等での人件費増などで営業費用が上昇している。
- ここ数年動力費単価減に助けられてきたが、燃料単価が上昇してきている。4ヶ月後に反映される当社にも更に影響が懸念される。
- 雪害の影響もあり1月期、2月期とマイナス収支となっており、年度計画を下方修正した。
- ベアについては一時金とは違い単年度での判断とはならない。中長期的に見なければならぬ性質のものであり慎重に判断していく。
- 対立点は多いが、まずは回答指定日に向けベアの議論を重ねていく。

2018バス春のたたかい 塩浜賃金学習会に 結集しよう！！

日時 3月20日（木）
3月23日（金）
3月26日（火）

時間 各日共通

- ① 9時30分～11時30分
- ② 12時00分～14時00分

場所 東京支店 塩浜会議室

職場からのたたかいで満額回答を勝ち取ろう！！